

令和7年度「飼料用米多収日本一」東北農政局長賞受賞者の概要

○単位収量の部

(敬称略)

褒賞名	経営体 (団体名・個人名)	住所	品種	飼料用米 作付面積 (a)	単収 (kg/10a)	取組概要
東北農政局長賞	いわさき しょういちろう 岩崎 正一郎	岩手県 岩手町	たわわっこ	642	727	<p>施肥管理の工夫(元肥を減らし、育苗箱施肥を多めに行う)により、肥効や生育が均一になり、倒伏が減少し、多収に繋がっている。</p> <p>また、プール育苗、フレコン出荷等といった作業の省力化にも取り組むとともに、畦畔を除去し、効率よく作業を行っている。主食用米(あきたこまち等)と作期の重ならない飼料用米の品種を選択し、作期分散にも取り組んでいる。</p> <p>さらに、地域の生産部会等におけるほ場視察等に積極的に参加し、自身の経営に活かしている。</p>

○地域の平均単収からの増収の部

(敬称略)

褒賞名	経営体 (団体名・個人名)	住所	品種	飼料用米 作付面積 (a)	地域の平均単収 からの増収 (kg/10a)	取組概要
東北農政局長賞	あきたや 有限会社秋田谷ファーム 代表取締役 あきたや かずとも 秋田谷 和智	青森県 五所川原市	ゆたかまる	5,916	137	<p>収穫後、全ての稲わらと鶏糞をすき込み、地力を高めるとともに、刈り取りの遅い飼料用米に合わせて肥効期間の長い肥料を選択する等により、多収を実現している。</p> <p>プール育苗、疎植栽培、田植え同時側条施肥、無人ヘリでの防除等といった作業の省力化にも取り組んでいる。また、主食用米(まっしぐら等)と作期の重ならない飼料用米の品種を選択することで、作期分散にも取り組んでいる。無人トラクターやKSAS等のスマート技術も活用し、全経営面積約103haの大規模経営を行っている。</p> <p>さらに、地域内で協議会を設立し、飼料用米等に関する情報の収集や、意見交換の実施等、地域内で連携しながら飼料用米の生産に取り組んでいる。</p>